タクシーで廃油回収

バイオ燃料に活用へ

【帯広】タクシー会社の大正交通（帯広、道見茂美社長）は、家庭から出る廃食油を乗客から回収して、バイオディーゼル燃料（BDF）の原料として活用する事業を四月から始める。BDFタクシーも導入する予定。同社によると、いずれもタクシー会社としては全国の中でも珍しい取り組みという。

保有するタクシー十六台のトランクに回収箱を設ける。利用客には乗車する際、廃食油をペットボトルなどに入れて持参してもらう。

廃食油は道内最大規模のBDF精製プラントを四月に本格稼働させる「エコERC」（帯広）に無償提供する。廃油提供者にはエコバッグを贈る予定。

BDFタクシーは、九人乗りマイクロバスを使った相乗り形式の四台のうち一台の燃料を、軽油からBDFに切り替える。今後、BDF対応車が開発されれば、LPガスを利用している小型タクシーへのBDF利用も検討する。

道見社長は「環境に優しい公共交通を目指したい。ささやかだが、善意の輪が広がるきっかけになれば」と、廃油回収への協力を呼び掛けている。

道新 2008-3-22(土)

帯広の大正交通